

# 分析結果報告書〔1〕 1 / 3

## 1. 1 廃棄物（ばいじん）試料（溶出試験：鉛）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003 2. ISO/IEC 17025(か`卜`25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1～4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	( ) 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	( )
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

< 重金属類分析の経験等 >

廃棄物の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない
土壌中の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない
環境水、地下水等の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない

回数	分析結果 (mg/L) 注1)	
	検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

1. 検液（溶出液）の作成

分析結果報告書〔1～4〕（共通）（1. 0 廃棄物（ばいじん）試料（溶出試験：検液（溶出液）の作成））に記入する。

2. 検定の方法（各項目の分析方法）

< 分析開始日等 >

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

< 分析方法等 > **分析方法については、必ず記入する。**

分析方法	1. フルム原子吸光法 2. 電気加熱原子吸光法 3. ICP発光分光分析法 4. ICP質量分析法 5. その他 ( )
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他 ( )

< 前処理 >

試料（溶出液）量 準備操作（前処理）	( ) mL 注1) 1. 塩酸酸性で煮沸 2. 硝酸酸性で煮沸 3. 塩酸による分解 4. 硝酸による分解 5. 塩酸と硝酸による分解 6. 硝酸と過塩素酸による分解 7. 硝酸と硫酸による分解 8. その他 ( ) 9. 前処理を行わない
前処理後の溶液（定容量） 注4)	( ) mL

注4) 定容とせず、全量で準備操作（溶媒抽出等）した場合には、記入しない。

# 分析結果報告書〔1〕 2 / 3

## <溶媒抽出等>

準備操作 (溶媒抽出等)	1. 溶媒抽出      2. イオン交換樹脂カラムによる分離      3. キレート樹脂を用いた固相抽出 4. その他 ( ) 5. 実施しない
前処理後の溶液の分取量 注5)	( ) mL
(溶媒抽出) 溶媒の種類 キレートの種類  抽出回数 溶媒の使用量 (イオン交換樹脂カラム) 種類 (キレート樹脂を用いた固相抽出) 樹脂 種類 1 種類 2 メーカー 型式 試料液のpH調節 試料液の流下 方法 流速  溶出 種類 濃度 量 回数	1. 酢酸ブチル      2. MIBK      3. キシレン      4. DIBK      5. その他 ( ) 1. DDTC      2. APDC      3. トリオクチルアミン      4. APDC+HMA-HMDC 5. その他 ( ) ( ) 回 ( ) mL/回 ( ) 1. イミノ酢酸キレート樹脂      2. その他 ( ) 1. ディスク      2. カートリッジカラム      3. その他 ( ) ( ) ( ) pH ( ) 1. 加圧      2. 吸引 ( ) mL/分 1. 硝酸      2. その他 ( ) ( ) mol/L ( ) mL/回 ( ) 回
最終の定容量	( ) mL
最終溶液 (試験溶液) の液性	1. 硝酸酸性      2. 塩酸酸性      3. 有機溶媒      4. その他 ( )

注5) 分取とせず、全量で準備操作 (溶媒抽出等) した場合には、記入しない。

## <原子吸光法>

試験溶液の希釈希釈倍率	( ) 注6)
電気加熱法 注入量 注入の方法 原子化の方法 モデファイアの添加	( ) μL 1. 自動注入装置      2. 手打ち 1. 黒鉛炉      2. 耐熱金属炉      3. その他 ( ) 1. 添加しない      2. Pdを添加      3. Pd以外の添加 ( )
原子吸光分析装置 バックグラウンド補正  フーム  測定波長	1. 行わない      2. 連続スペクトル光源(重水素ランプ、タングステンランプ等) 3. ゼーマン分裂      4. 非共鳴近接線      5. SR補正 (自己反転法) 6. その他 ( ) 1. アセチレン-空気通常炎      2. アセチレン-空気還元炎 3. アセチレン-酸化二窒素      3. その他 ( ) ( ) nm

注6) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

## <ICP発光分光分析法>

試験溶液の希釈希釈倍率	( ) 注6)
ICP発光分光分析装置 発光部 (光観測方式)  分光部  検出部  バックグラウンド補正 超音波ネブライザーの使用 測定時間 測定波長	1. 横方向      2. 軸方向 3. その他 ( ) 1. ツェルニ・ターナー型 (シークエンシャル形) 2. パッシェン・ルンゲ型 (同時測定形)      3. エシエル型 (同時測定形) 4. その他 ( ) 1. 光電子増倍管 (フォトマル)      2. 半導体検出器 3. その他 ( ) 1. 行う      2. 行わない 1. 使用しない      2. 使用する ( ) 秒 ( ) nm

注6) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

# 分析結果報告書〔1〕 3 / 3

## <ICP質量分析法>

試験溶液の希釈希釈倍率 ICP質量分析計 メーカー・型式	( ) 注6) 1. アジレント (1 1. 7500シリーズ 1 2. 7700シリーズ 1 3. 8800シリーズ 1 4. その他 ( ) ) 2. サーマサイエンティフィック (2 1. iCAP Q 2 2. その他 ( ) ) 3. 島津 (3 1. ICPM-8500シリーズ 3 2. その他 ( ) ) 4. セイコー (4 1. SPQ8000シリーズ 4 2. SPQ9000シリーズ 4 3. その他 ( ) ) 5. パーキンエルマー (5 1. NexION 300シリーズ 5 2. その他 ( ) ) 6. 日立 (6 1. SPQ9700シリーズ 6 2. その他 ( ) ) 7. その他：メーカー ( ) 型式 ( )
スペクトル干渉の低減又は補正 質量分析計 コリジョン・リアクションセル  水素化物発生 補正式による補正  その他	1. 四重極 2. 二重収束 3. その他 ( ) 1. 行わない 2. 行う 「2. 行う」場合の使用ガスの種類 1. ヘリウム 2. 水素 3. メタン 4. アンモニア 5. キセノン 6. その他 ( ) 「2. 行う」場合の使用ガスの流量( )mL/分 1. 行わない 2. 行う 1. 行わない 2. 行う (その方法の概要： ) 補正前の指示値 ( ) 補正後の指示値 ( ) 注7) 1. 行わない 2. 行う ( )
超音波ネブライザーの使用	1. 使用しない 2. 使用する
積分時間 (質量数毎)	( ) 秒
質量数	( )

注6) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

注7) 指示値としては「イオンカウント値」等を記入する。

## <検量線の作成等>

定量方法方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 1. イットリウム(Y) 2. インジウム(In) 3. イッテルビウム(Yb) 4. タリウム(Tl) 5. ビスマス(Bi) 6. ベリリウム(Be) 7. ロジウム(Rh) 8. レニウム(Re) 9. テルル(Te) 1 0. ガリウム(Ga) 1 1. ゲルマニウム(Ge) 1 2. スカンジウム(Sc) 1 3. コバルト(Co) 1 4. その他( )
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	( ) 最小( )mg/L～最大 ( ) mg/L 注8) ( )
試料の指示値	1回目( ) 注9) 2回目( ) 3回目( )
空試験の指示値	( ) 注10)
検出下限値	( )mg/L 注11)

注8) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) を示す。

注9) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注10) 標準添加法では記入しない。

注11) 試料中の濃度 (mg/L) を示す。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--